

英国 University College London の語学センター — 夜間コース報告記 —

浦田和幸

1. はじめに
2. UCL 語学センターの概要
3. 夜間コース
4. 夜間コース受講体験メモ
 - 4.1. スウェーデン語
 - 4.2. アイスランド語
5. おわりに

1. はじめに

筆者は 2011 年 4 月から 9 月までの特別研修の期間、主にロンドンに滞在して英語学の研究に従事した。この機会を利用して、ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London; 以下、UCL と略記) の語学センターが開講する夜間コースに参加した。受講したのは、英語史との関連でかねてより関心のある北ゲルマン語のうち、スウェーデン語とアイスランド語の 2 クラスであった。本稿では、UCL の語学センターについて簡単に触れたうえで、夜間コースの概要を紹介し、ついで、筆者の経験に基づいて、スウェーデン語とアイスランド語のクラスの状況について具体的に述べることにする。

なお、UCL とはロンドン大学 (University of London) の一部を構成する独立のカレッジである。創立は 1826 年。『UCL 学部入学案内 2011-2012 年度』 (*UCL Undergraduate Prospectus 2012 Entry*) の「UCL プロフィール」(p. 4) によると、学生総数は 24,000 名超 (学部学生 13,600 名)、8 学部、49 学科/部門を有する総合大学である。うち、留学生が 9,100 名超を占めている。確かに UCL のキャンパス内を歩いていると、様々な国からの留学生が大勢いることを実感する。UCL が自らを ‘London’s Global University’ と称しているのも頷ける。

2. UCL 語学センターの概要

UCL 語学センターは 1991 年に設立され、既に 20 年が経過している。現在、当センターでは、大きく分けて 3 種類のコースが提供されている。以下、ホームページの冒頭説明を引用する。
(<http://www.ucl.ac.uk/language-centre/>)

The UCL Language Centre offers full and part-time **English for Academic Purposes and foundation courses** for international students as well as **foreign language courses** to UCL students, staff and

London's wider academic and professional community.

留学生対象の「アカデミック英語コース」と「基礎コース」、そして、UCL の学生・教職員及び一般市民対象の「外国語コース」がある。「アカデミック英語コース」は UCL の学部入学に必要な英語力を養成するコースである。「基礎コース」は、海外の中等教育の卒業資格が UCL の学部入学条件として認められない学生のための入学準備コースであり、英語に加えて様々な教科の授業が提供されている。一方、「外国語コース」では、以下のように、UCL の学部学生対象のコースと、UCL の学生・教職員及び一般市民対象のコースが開かれている。

外国語コース

学部学生対象

- ・現代外国語コース (Modern Language Courses : フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、アラビア語、中国語、日本語)
- ・アカデミック英語コース (学術目的の英語技能の強化、及びアカデミック・ライティング)
- ・TEFL コース (Teaching English as a Foreign Language 外国語としての英語教授法)

UCL 学生・教職員、一般市民対象

- ・夜間コース (18 言語を提供)

施設の点では、UCL の学生・教職員、及び語学センターの受講者が利用できる自学自習センター (Self-Access Centre) が設置されており、特別の期間を除くと、月曜日から金曜日は午前 8 時から午後 10 時まで、土曜日は午前 10 時から午後 5 時まで開放されている。設備としては、視聴覚教材 (オンライン)、語学教科書・参考書、辞書、読本、新聞・雑誌、CALL システムがある。教材の多くには CEFR (Common European Framework of Reference for Languages ヨーロッパ共通参照枠組み) のレベルが表示されている。

以下、夜間コースに的を絞って見ることにする。

3. 夜間コース

UCL 語学センターの夜間コースに関して概況を記す。当コースのパフレット (*Evening Language Courses 2010-2011*)、ホームページ (<http://www.ucl.ac.uk/language-centre/evening-courses>)、及び運営責任者の Laura Mezzomo 氏からの聞き取り調査による。

目標：当該言語で効果的なコミュニケーションを図る能力の養成。

特色：

- ・「読み」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能を教授するが、特に口頭でのコミュニケーションに重きを置く。

- ・ コミュニカティブ・アプローチによる。
- ・ クラス人員は最大限で 12 名。(受講者が話す時間を最大限に確保するため)
- ・ 講師は母語話者で、語学教育の有資格者。

少人数クラスにおけるコミュニカティブ・アプローチにより、受講者の積極的な授業参加を通して、速い上達を促すことを旨としている。

提供している言語は、以下の 18 言語である。

フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ラテン語、ドイツ語、オランダ語、スウェーデン語、ノルウェー語、アイスランド語、現代ギリシア語、ウェールズ語、アラビア語、ヘブライ語、トルコ語、カザフ語、中国語、日本語

2010-2011 年度に関して、開講学期、開講時間帯、授業料は以下のとおりであった。

開講学期 (2010-2011 年度)

- ・ 秋学期：2010 年 10 月 11 日～12 月 17 日
- ・ 冬学期：2010 年 1 月 17 日～3 月 25 日
- ・ 夏学期：2011 年 5 月 2 日～7 月 8 日

開講時間帯

- ・ 月～金：17:00-19:00, 19:00-21:00 (120 分授業)

授業料：10 週で 1 クラス当たり 260 ポンド (2011 年 4 月当時で約 3 万 6 千円)

1 学期あたりの授業時間数は、2 時間×10 週で計 20 時間である。レベルは初級・中級 (下)・中級 (上)・上級・超上級と 5 段階に分かれ、言語によっては、その上に熟練者用のクラスが設けられている。初級から超上級まではそれぞれ 2 段階に分かれ、各級が 2 学期 (=40 時間) で終了する仕組みである。以下、レベル別に対象者と到達目標などを挙げる。

初級 1 & 1+ (Beginners)

- ・ 対象：初心者。
- ・ 目標：日常の実際的な事柄について、いくらか表現し、理解できる。

中級 (下) 2 & 2+ (Lower Intermediate)

- ・ 対象：学習経験があり、現在時制・過去時制に関してある程度の知識がある学習者。
- ・ 目標：文化の諸相に関連した日常の実際的な事柄について、表現し、理解できる。

中級（上） 3 & 3+ (Upper Intermediate)

- ・対象：十分な基礎知識がある学習者。指示をし、出来事を描写し、未来について話し、また、条件法と接続法の基礎知識を有していることが期待される。
- ・目標：母語話者とある程度流暢に会話をし、適切な構文を用いて、個人的・社会的・時事的問題について議論できる。

上級 4 & 4+ (Advanced)

- ・対象：当該言語、及びその主要な文法構造を十分に使いこなせる学習者。
- ・目標：より複雑で言語的に正確な構文を用いて、母語話者と会話をし、討論を理解し、短い発表をし、内外の時事問題について論ずることができる。

超上級 5 & 5+ (Post-Advanced):

- ・対象：高度な流暢さと正確さをもって当該言語を使用できる学習者。
- ・目標：トピックに関連した語彙を駆使する能力と、状況に応じて文体を使い分ける能力を高め、当該言語のすべての形態を専門的な環境の中で使用することができる。

熟練 (proficiency)

- ・対象：当該言語を流暢かつ正確に使用することができる学習者。
- ・授業内容：生の教材を広範に用いて、会話およびグループ討論を行うことを主眼とする。

夜間コースに初めて申し込む際には、初心者以外は、指定された日時にレベルチェックを受けて、受講言語のクラスが決定されることになっている。

次に受講者数を見てみよう。2011年夏学期に関して、学期当初に夜間コース事務室前の掲示板に表示された各言語のクラス別受講者リストから受講者数を集計したところ、総計は740名であった。言語別の内訳を示したのが次の表である。

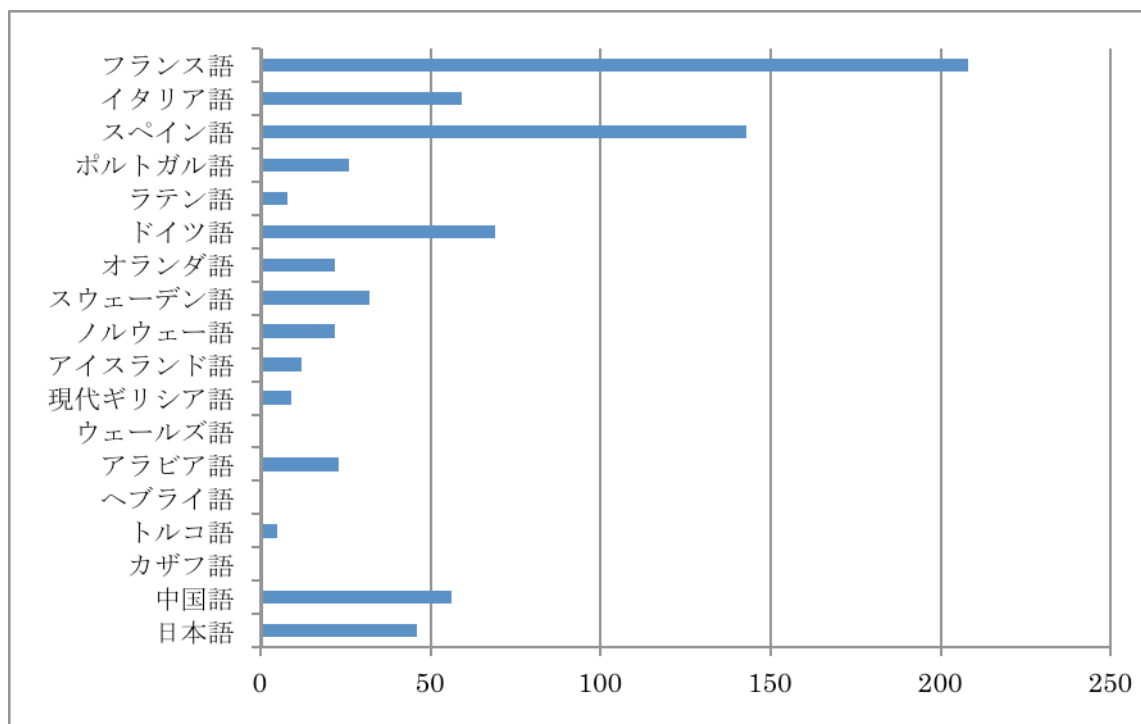
言語別受講者数（2011年夏学期）

言語	受講者数
フランス語	208
イタリア語	59
スペイン語	143
ポルトガル語	26
ラテン語	8
ドイツ語	69

オランダ語	22
スウェーデン語	32
ノルウェー語	22
アイスランド語	12
現代ギリシア語	9
ウェールズ語	0
アラビア語	23
ヘブライ語	0
トルコ語	5
カザフ語	0
中国語	56
日本語	46

上表の数値を棒グラフで図示したのが以下である。

言別受講者数 (2011年夏学期)



この表は、英国における外国語学習の人気の度合いの一端を示していると言ってよかろう。全体としては、ロマンス語の受講者数が多く、フランス語が群を抜き、続いてスペイン語とイタリア語が多い。ゲルマン語はロマンス語ほど人気がないようであるが、その中ではドイツ語の受講者数が最も多い。東アジアの言語としては中国語と日本語があり、ともに健闘している。夜間コ

ース運営責任者の Mezzomo 氏の話では、言語によっては学期ごとに受講者数の変動がある。例えば、当学期はスペイン語の受講者数は減ったが、普段はフランス語とスペイン語が人気を二分しているようである。また、アラビア語は減って、中国語は増えた。日本語については、受講者数が安定しているとのことであった。なお、人数がゼロの言語があるが、何らかの事情で開講していないか、あるいは、申込人数が規定数に達しないため開講中止になったと考えられる。

次に、各言語のレベル別受講者数を挙げる。(ただし、学期開始前の申込結果に基づく数値であり、学期開始後にレベルを変更する受講者がいるため、実際の受講者数とは若干異なる場合がある。)

言語別／レベル別受講者数 (2011年夏学期)

	初級		中級 (下)		中級 (上)		上級		超上級		熟練	合計
	1	1 ⁺	2	2 ⁺	3	3 ⁺	4	4 ⁺	5	5 ⁺	P	
フランス語	46	43	29	20	11	23	6	10	5	15		208
イタリア語	21	7	13			7				7	4	59
スペイン語	45	25	20	18	12	7	8		5	3		143
ポルトガル語	6	6	5		9							26
ラテン語			4			4						8
ドイツ語	18	15	8	6	8	5		5			4	69
オランダ語	4	5	5	5							3	22
スウェーデン語	10	6	8				5	3				32
ルウェー語	7	3	4			8						22
アイスランド語		4	4								4	12
現代ギリシア語								3			6	9
ウェールズ語												0
アラビア語	10	8									5	23
ヘブライ語												0
トルコ語	5											5
カンナダ語												0
中国語	22	7	4		6	10					7	56
日本語	11	7	7	7		4				6	4	46
小計	205	136	111	56	46	68	19	21	10	31	37	740
合計	341		167		114		40		41		37	740

合計を見ると、初級の受講者総数が 341 名に対し、中級下の受講者総数は 167 名で、ほぼ半数である。また、中級上は 114 名で、中級下に比べると約 3 分の 2。上級は 40 名で、中級上のわずかに約 3 分の 1 である。以降は比較的安定した数値を示している。ただし、言語によるばらつきが大きいため、最も受講者数の多いフランス語に限って見ると、初級 (89 名)、中級下 (49 名)、中級上 (34 名)、上級 (16 名)、超上級 (20 名)、熟練 (0 人) であり、中級下は初級の半数強、中級上は中級下の約 3 分の 2、上級は中級上の約半数である。

4. 夜間コース受講体験メモ

2011 年夏学期にスウェーデン語とアイスランド語のクラスを受講した経験から、両クラスの状態を記す。筆者が受講したクラスは以下の通りである。

スウェーデン語：初級 (レベル 1) 木曜 17:00~19:00

アイスランド語：中級下 (レベル 2) 月曜 19:00~21:00

4.1. スウェーデン語

スウェーデン語の初級 (レベル 1) の登録者は 10 名であったが、常時出席者は 7 名。うち、男性は 4 名、女性は 3 名。出身別では、英国人が 3 名、外国人が 4 名 (ヨーロッパ 2 名、米国 1 名、日本 1 名) であった。UCL の学生は 1 名、教職員は 2 名、他は社会人であった。

講師はスウェーデン人女性で、外国語としてのスウェーデン語教授法を専門とする。夜間コースのスウェーデン語の全クラス (5 クラス) を一手に引き受けて担当するベテランの先生であった。

教材は、スウェーデンで出版された *Rivstart A1 +A2* の教科書 (CD-ROM 付き) とワークブックであった。本書は CEFR のレベルに対応して編纂されており、20 課構成のうち、A1 相当が 1~6 課、A2 相当が 7~20 課であった。ウェブ上には、本書の補助資料として、語彙集、練習問題の解答、リスニング文のトランスクリプト、復習テスト (問題と解答) が提供されており、実にユーザー・フレンドリーな入門書であった。筆者が受講したレベル 1 のクラスでは 5 課まで進んだ。1 冊全体を終えるのに 4 学期を要す。次の段階では *Rivstart B1 +B2* の教科書とワークブックが用いられ、終了するのに 6 学期を要する。つまり、2 冊終えるのに、10 学期 (200 時間) を要する計算になる。CEFR のレベルと当夜間コースのスウェーデン語クラスのレベルを対応させると、概ね次のとおりである。

A1/A2 レベル：1、1+、2、2+

B1/B2 レベル：3、3+、4、4+、5、5+

なお、講師の話では、スウェーデンで働くには B2 の力があれば十分である。一方、大学で学ぶにはそれ以上の力が必要とのことであった。

では、Rivstart A1 +A2のうち、学習した第5課までの内容を、同書の目次より、スウェーデン語からの試訳で示す。

章	テーマ	Can-do	文法事項等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション：挨拶、国、仕事、学業、家族、言語 ・教室表現 ・アルファベット 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の名前、自分が住んでいる場所、自分の出身を述べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞：現在 ・語順：陳述文、疑問詞疑問文、yes/no 疑問文 ・人称代名詞：主格形 ・疑問詞
2	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション：挨拶と暇乞い ・仕事と学業（続き） 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が元気かどうかを尋ねることができる。 ・自分について、または他人について、紹介することができる。 ・人に挨拶をし、簡単な挨拶と暇乞いの表現を使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞：単数不定形 ・人称代名詞：主格形（続き） ・疑問詞（続き） ・語順（復習）
3	<ul style="list-style-type: none"> ・数字：基数 ・時刻 ・プレゼンテーション：住所、電話番号 ・年齢 	<ul style="list-style-type: none"> ・数、時刻、値段、時刻を理解できる。 ・自分が住んでいる場所、住所、電話番号を述べるができる。 ・簡単な語を使って、一日の生活について述べるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞：命令形 ・名詞：単数定形 ・語順（続き） ・動詞：現在（続き） ・疑問詞（続き）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物 ・食べ物 ・数字（続き） 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な買い物ができるが、時には指し示したりしなければならない。 ・レストランやカフェで注文することができる。 ・値段を尋ねることができる。 ・非常に簡単な宣伝を理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞：複数不定形 ・指示代名詞：単数形 ・助動詞＋不定詞 ・人称代名詞：主格形（続き）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇 ・文化 ・計画と決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の趣味や余暇の関心事について、簡単に述べることができる。 ・人と余暇の活動の計画を立てることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞：単数および複数不定形 ・動詞：不定詞 ・助動詞 ・頻度の副詞 ・時の表現 ・国名の形容詞

授業はほぼ教科書に基づいて行われた。口頭説明は基本的に英語であったが、指示などは徐々にスウェーデン語で行われるようになった。基本的にコミュニケーション・アプローチによる授業であった。その日の新しい文法事項と語彙を学習した後に、受講者間のペア練習、発表、講師との応答などが行われた。スウェーデン語は、アイスランド語やドイツ語などに比べると、語形変化が単純化しているので、英語話者向けの説明はそれほどの時間を必要とせず、その分、練習にかなりの時間が割かれた。各回の授業の翌日には宿題の指示等について講師から全員にEメール連絡があり、こちらからの質問がある場合には、Eメールにより迅速かつ丁寧な応答がなされた。

4.2. アイスランド語

アイスランド語は、レベル 1+、レベル 2、レベル P (Proficiency) の3クラスが開講されたが、受講者総数は12名にすぎず、スウェーデン語の受講者総数32名、ノルウェー語の受講者総数22名に比べても、かなり少ない。

クラス選択の過程を示す例として、筆者の場合を記しておく。筆者はアイスランド語の多少の学習経験があったが、プレイスメント・テストの日程に合わなかったため、当初は、申込時にプレイスメント・テストの必要がない初心者クラス(レベル1)を選択した。ところが申込者数が規定数に達しないという連絡があったため、Eメールで相談のうえ、レベル1+のクラスの初回に参加した。その際の講師の助言により、最終的には、レベル2のクラスに参加することとなった。当クラスの受講者数は、申込時の4名に筆者を加えて、計5名であった。うち、男性は4名、女性は1名、英国人が2名、外国人が3名(ヨーロッパ2名、日本1名)であった。UCLの学生・教職員はゼロで、全員が一般社会人であった。

講師はアイスランド人女性で、外国語としての英語教授法を英国の大学で学んだあと、UCL語学センターの夜間コースでアイスランド語の授業を担当するとともに、夜間コースの運営にも携わる職員である。語学教育に非常に熱心で、若い精力的な先生であった。外国語としての英語教授法を学んだ結果が、外国語としてのアイスランド語教育に生かされているのであろうと想像する。

授業では所定の教科書はなく、毎回、5~10枚程度のプリントが順を追って配布された。授業の内容は、主に文法と語彙の習得に向けられていた。

その日の文法事項の明快な説明のあと、プリントで多量の練習問題をこなし、その後に、受講者同士の対話練習が課された。筆者が受講したクラス(レベル2)では、文法事項として、動詞の過去時制(弱変化、強変化)、現在完了形、等が扱われた。また、表現法としては、依頼表現、場所表現、数量表現、等が扱われた。

語彙は、テーマ別にプリントで練習をした。扱われたテーマは、家屋、家具、家電、台所用品、アイスランドの天気・地勢・観光、等。

説明や指示は、適宜、英語とアイスランド語を取り混ぜてなされた。授業中には矢継ぎ早にプリントが配布され、説明→問題演習→対話練習という流れがテンポよく繰り返された。実に刺激的な授業であった。

アイスランド語は、スカンジナビア半島の北ゲルマン語（スウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語）に比べると、古い時代の言語の状態をかなり保持しており、語形変化はゲルマン語派の中で最も複雑である。従って、同じゲルマン語派に属する言語とはいえ、英語話者も文法にはかなり苦勞しているようであった。

アイスランド語の授業では、CEFR への言及は特にはなかった。ただし、自学自習センターのアイスランド語教材には、CEFR の基準によってレベルが示されていた。

5. おわりに

以上、UCL 語学センターの概要に続き、UCL の学生・教職員以外に一般市民をも対象とする夜間コースについて概観した後に、筆者が実際に1学期間参加したスウェーデン語とアイスランド語のクラスの状況について報告した。

海外からの留学生を大勢かかえる UCL において、留学生の英語教育のために語学センターが果たす役割が多大であることは容易にうかがえる。また、筆者が参加した夜間コースのクラスでも、英国人より外国人の受講者数が若干上回っていた。様々な国からの人々が暮らすロンドンならではのことであろう。

夜間コースでは細かくレベル分けがなされており、スウェーデン語のクラスに関して言えば、CEFR との対応が明確に意識されている。CEFR との対応の有無や程度は開講言語ごとに様々であろうが、少なくとも自学自習センターの教材については、すべてではないにせよ CEFR のレベルが示され、学習者の便に供している。

英国の大学の語学センターで広く社会に開かれた外国語学習のクラスを受講し、学ぶと同時に授業の様子を直に観察する機会を得たことは、語学教師の一人として非常に貴重な経験であった。

< 参考文献・関連サイト >

- Scherrer, Paula Levy and Karl Lindemalm (2007), *RIVSTART A1+A2: Textbok*. Stockholm: Natur & Kultur.
_____ (2007), *RIVSTART A1+A2: Övningsbok*. Stockholm: Natur & Kultur.
UCL (2011), *UCL Undergraduate Prospectus 2012 Entry*. London: UCL Publications and Marketing Services.
UCL Language Centre (2010), *Evening Language Courses 2010-2011*. London: UCL Language Center.
UCL Language Centre (2011), *Language Courses Units 2011-2012*. London: UCL Language Center.

=====

University College London : <http://www.ucl.ac.uk/> (アクセス : 2012 年 1 月 10 日)

UCL Language Centre : <http://www.ucl.ac.uk/language-centre/> (アクセス : 2012 年 1 月 10 日)